

開催報告 港湾フォーラム

災害に強い東予港の早期整備を！

東日本大震災を受け、人、物、情報を運ぶ海と陸との中継点としての「みなと」をどのように整備していくべきかを考えるため、5月19日、総合文化会館にて、各分野の専門家をお迎えし、「港湾フォーラム『地震・津波・液状化』その取り組み／災害に強いみなとを考える」（東予港湾整備促進期成同盟会・西条市主催）が約1200人の市民や防災士の参加により開催されました。

参加者には地元高校生から見られ、このテーマに対する幅広い年齢層からの関心の高さがうかがわれました。

■第1部 基調講演

まず行われた講演では、嘉門香川高等専門学校校長から、震や巨大津波の恐ろしさや、液状化のメカニズムやその対策などが、立谷福島県相馬市



▲嘉門雅史香川高等専門学校長による基調講演の様子



▲立谷秀清相馬市長による基調講演「東日本大震災相馬市の対応」の様子

長からは、相馬市を襲った地震や巨大津波の恐ろしさや、現在も続く復旧復興の様子が、また富田港湾空港技術研究所



▲富田孝史（独）港湾空港技術研究所副センター長による基調講演の様子

副センター長からは、津波の仕組みや、特徴、その対策について、それぞれお話をいただきました。



▲真剣にこれからの西条の「みなと」について考える参加者の皆さん

■第2部

パネルディスカッション

基調講演の三氏に、伊藤西条市長、日高今治造船(株)西条工場長を加え、港の重要性、耐震強化岸壁等整備の必要性、津波の河川遡上（そじょう）の危険性、地下水位の高い西条市の液状化問題、大規模災害時の相互応援など地域ネットワークのための港の重要性などのテーマにつき、会場からいただいた多数の質問への回答を含め、パネリストにより活発な議論が行われました。



▲相馬市と西条市の絆は固く結ばれています



▲活発に議論されたパネルディスカッションの様子

フエウォッチング

暑い日が続くフエからお伝えします。いつにも増して、町の中の人が多いと思ったら、夏休みがやって来ようです。防災教育支援事業を実施している中学校も夏休みが始まりました。こちらの夏休みは2カ月半と長く、田舎に帰省したり、海や川へと旅行に出かける家族とさまざまです。

フエの少し郊外へ足を運ぶと田園風景が広がっています。過去の記事でもお伝えしたように、ベトナムの主食は日本と同じように「米」です。ベトナムの稲作は、年に2回収穫する二期作で、ここフエでは、今がちょうど収穫の季節です。ベトナムの稲作は、いまだに伝統的な手作業によって丁寧に米を栽培し、収穫されています。そんな田園風景には、水牛やアヒルも欠かせません。刈り取られた田んぼの中では、夏休み中の子どもたちが自由に遊んでいます。

夏のフエ。日中はとても暑いですが、少し街の外れに出かけると、どこか懐かしいような生き生きとした風景を楽しむことができます。



フエ市防災教育支援事業
コーディネーター 中村範子



vol. 11